

児童会集会活動指導案

参加者 全児童 場所 体育館
指導者 ○○ ○○ ○○ ○○

1 集会名 「新町フレンズ集会」(ショート集会)

2 本集会までの背景と経過

(1) 児童の実態

本校では、児童会集会活動(ロング)として、「1年生を迎える会」「イングリッシュデーの交流集会」「6年生を送る会」等を行ってきた。本年度もこれまでに、代表委員会で話し合われた「1年生を迎える会」「新町ギネス集会」を行っている。

異学年との人間関係を深めたり、子どもたちの自発的、自治的な態度を育成したりするために、フレンズ班活動を中心に据え、新町フレンズ集会(ショート)を第4金曜日の朝の活動(新町タイム)で行っている。これは、年間計画にもとづいて、各委員会がそれぞれに計画・運営している集会である。担当する子どもたちは輪番制であるため、戸惑いながらも一生懸命にアイデアを出し合い、工夫しながらお知らせやゲームを行ってきた。会を重ねるごとに集会を楽しみにする気持ちが高まり、主体的に集会に取り組むようになってきた。集会直後の担当委員会の評価では、反省点もあるが、みんなが楽しむために精一杯頑張れたという感想が多く聞かれるようになった。

集会に参加している児童も、初めは異学年とのかかわりにぎこちなさがあり、集会本来の楽しさを味わうことができなかった。しかし、今では意欲的に活動し、集会を楽しんだり友だちの頑張りを認めたりでき始めている。また、高学年が低学年を思いやる姿が見られたり、低学年が高学年に感謝したりする場面も多くなり、人間関係が深まりつつある。このことは、異学年の子どもたちが休み時間に誘い合って遊んでいる様子にも表れている。

(2) 本集会までの経過

新町フレンズ集会は、今回で7回目となる。4月のスクールランチ委員会から始まり、新町ショップすこやか、アナウンス、びかびか、ライブラリー委員会と行ってきた。第5回からは集会戦隊新町レンジャーが登場し、集会を盛り上げている。集会の歌も代表委員会の話し合いで「イッツ ア スモールワールド」から「スキダマリンカハロー」、そして「世界中のこどもたちが」と変わってきた。また、班のルール作りをしたいという願いから、各班で話し合いを行い、よりよい集会を目指してきた。

本集会は、ワールド委員会の担当である。ワールド委員会は、10月末の委員会活動の時間に内容について話し合い、その後、休み時間を利用して準備や練習を行ってきた。子どもたちは、工夫を加えたり自主的に練習を行ったりし、集会の成功のために意欲的に取り組んできた。また、オープニングとクロージングを担当する児童会役員も低学年が楽しんでくれることに喜びを感じており、みんなのリクエストに応じながら、オープニングのショート劇を考え練習してきた。

(3) 指導にあたって

意欲的に集会の計画に取り組んできたワールド委員会だが、子どもたちにとっては初めての集会担当であり、緊張したり戸惑ったりすることが予想される。協力して役割分担し、計画してきたことがやり遂げられるよう、教師は励ましていきたい。また、いつもみんなのために活動している児童会役員に対しても、同様に励ましの言葉がけをしたい。そして、集会後は互いによかった点や改善点を話し合い、次の活動に役立てていくとともに、自主的な活動が展開できたことに十分な賞賛を与えたい。

集会に参加している高学年の子どもたちには、各班のリーダーとしての自覚をもって、協力しながら主体的に活動できるよう助言していきたい。また、ふれあいの中でよりよい人間関係を深められるよう全教職員で見守り、子どもたちの思いや願いが大切にされる集会となるように指導していきたい。

3 活動の流れと指導助言・評価の観点

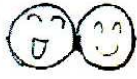
	活動内容	時間	指導助言	評価規準
集会の準備	集会の計画 役割分担・呼びかけ 準備・練習 (ワールド委員会・児童会役員)	11/4(水) 以降	みんなが楽しい集会になるよう、自分たちで計画することができるように励ます。 一人一人のよさや思いを大切に、準備することができるように助言する。	全校のみんなが楽しめる集会を計画することができる。 お互いのよさや思いを生かしながら、準備することができる。
本集会	「新町フレンズ集会」	11/20 (金) 本時	本時の活動に記述	
振り返り	活動を振り返り、生かす。 (各学級・各委員会・児童会役員)	11/20 (金) 以降適宜	活動直後に振り返り、よかった点や改善点を話し合わせ、次の活動に生かすように助言する。 (担当委員会・児童会役員) 担当委員会や異学年の友だちのがんばりにも目を向けさせる。 (各学級・各委員会)	改善点を考えることができ、次の活動や学校生活の向上への意欲をもつことができる。 担当委員会や異学年の友だちにも目を向けさせ、互いのよさやがんばりを見つづけることができる。

4 本時の活動

(1) ねらい

- ・ 楽しく集会に参加し、異学年の友だちとも協力して、ふれあいを深める。(全児童)
- ・ 計画にそって、楽しい集会の実践に主体的に取り組む。(ワールド委員会・児童会役員)

(2) 活動計画

第 7 回 新町フレンズ集会		
担当委員会	ワールド委員会	
集会の日	11月 20日 金曜日 新町タイム	
集会の順序	気をつけること	役割
1 オープニング 集会戦隊新町レンジャ	1 集会を盛り上げるように 大きな声で元気よく言う。	児童会 役員
2 集会の歌 「世界中のこどもたちが」	2 みんなが楽しく元気に 歌えるようにする。	〃
3 担当委員会の発表やお知らせ 今月の英語フレンズ	3 ゆくりと大きな声で わかりやすく言う。	ワールド 委員会
4 ゲーム 「動物さん集まれ」 ・ルール説明 ・みんなでゲーム	4 1年生にもわかるように 動作をつけてルールを説 明する。 ・ヒントをはっきり言う。	〃
5 クロージング 次回のお知らせ	5 明るく楽しそうに言う。 	児童会 役員

(3) 指導助言

- ・ 一人一人が楽しく、協力して参加できるように助言する。(全児童)
- ・ 自分の役割を果たし、主体的に集会の実践ができるように助言する。(ワールド委員会・児童会役員)

(4) 評価規準

- ・ 楽しく集会に参加できる。(全児童)
- ・ 異学年の友だちとも協力し、ふれあいを深めることができる。(全児童)
- ・ 自分の役割を果たし、主体的に取り組むことができる。(ワールド委員会・児童会役員)

3 教師主導になりがちですが、子どもたちが自発的、自治的に活動を進めるためにはどうすればよいのですか。

子どもたちに「自分たちで運営できている」「集会はぼくらの力で自由にできる時間だ」というような自信をもたせることが大切です。もちろん、このようなことは一朝一夕にはできません。ある程度の継続が必要です。学校規模によっても違うと思われますが、これから計画を立てて実践していこうとするならば、長いスパンで計画を立て、実践を重ねることが必要です。初めのうちは、子どもも教師もうまくいかないことが多く紆余曲折するのですが、それを分かった上で実践を続けることが重要です。特に、管理職の理解が必要になることが出てくるので、特別活動主任は管理職とよく話し合っ、て、集会の目標を理解してもらっておくと継続に弾みがつくでしょう。

ある程度継続するようになると、子どもたちに変化が見られてきます。計画・運営に直接携わり自信のついてきた高学年児童はもとより、参加している中学年、低学年の態度が変わってきます。初めの頃は参加するたびに騒がしく、「静かにしなさい！」という注意ばかりが耳についていたのが、落ち着いて参加できるようになってきます。そのうち「高学年になったら、前に出てやってみたい」「〇〇委員会に入りたい」という意識をもった子どもたちが何人も出てくるようになります。これらのことは特別活動に携わる教師として喜びを感じられる変化といえるでしょう。我慢を強いられるときも多くありますが、子どもたちの変化を実感できるまでぜひ継続してください。

4 支える教職員の望ましいあり方について教えてください。

「任せられるところは子どもたちに任せる」という姿勢を崩さないことです。とにかく教師はできばえを気にしがちですが、それまでの過程で企画に携わった子どもたちは伸びており、集会を行っている最中にも運営の難しさを感じながらも成長しているのです。そこを評価してほしいと思います。かかわった教師にはそれが見えます。さらに、直接指導にかかわっていない教師にも理解してもらえる教職員集団であってほしいと思います。そのために特別活動主任は年度当初に特別活動の研修を取るなどして、全職員に共通理解を図る必要があるでしょう。

児童会集会活動は、教育活動のひとつですので、教師側にも指導の目標がなくではありません。任せきりにせず、計画がどのように進んでいるかを把握しておくことが必要です。また、子どもたちが決めた後で、それを否定するような指導があってはなりません。そうならないように、必要なときには適切な指導をしながら、子どもたちが「自分たちでやった」という充実感や達成感をもてるように配慮してほしいと思います。

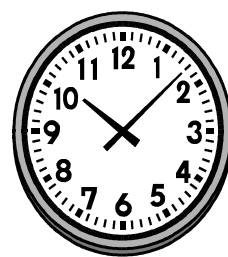
また、授業時数に関すること、安全面の配慮が必要なこと、金銭をとまなうことなどについては、子どもたちに決めさせず、教師側の設定が必要です。子どもたちに決めさせられないことは始めに指導しておき、任せられる範囲を示した上で、計画を立てるようにすると後々困ることも防げるでしょう。



5 時間の確保はどのようにすればよいのですか。

特別活動主任を中心に年度当初に計画を立てることがまず必要です。その際には、指導要領に時数が明示されないからといって曖昧にせず、何回程度集会の時間をとるかを考えておく必要があります。また、各委員会の子どもたちが年間に一度は集会の運営に関わることのできる程度の時数を確保するなどの工夫をするのもよいでしょう。なお、比較的規模の大きい集会活動を学期に1回程度設けるのが望ましいでしょう。

大規模校などで子どもたちの移動に時間がかかる場合は、朝会後の時間を集会に利用することも考えられます。子どもたちが楽しみにしている集会の時間です。教師も柔軟な姿勢で、時間を生み出せるように努力することが大切です。



6 学校規模によって集会活動のあり方に違いはあるのですか。

(1) 小規模校

小規模校の場合、学級活動以外の活動がすべて全校で行われることが少なくありません。異年齢集団で活動することも珍しくはないので、普段から集会活動のひとつのねらいは達成できているとも考えられます。反面、子どもたちの手による企画・運営がしにくいという点や、少人数であるが故に教師の目が全員に届きやすく、つい教師の思うように指導してしまうなどの問題点もあります。

あくまでも、自発的、自治的な運営を重視した集会活動を望みます。また、人数的に無理が生じるようなときは、教師集団も子どもと一緒に参加して楽しむという方法も考えられます。高学年児童を中心に、全員で考え、全員で運営する集会活動もおもしろいのではないのでしょうか。

(2) 大規模校

児童数が多く、体育館に全校児童が入ると動きがとれなくなる学校もあります。そのような学校においては、活動内容に制約ができて不便になる場合もあります。ゲームをしようにも動きの大きなものはできないので、どうしてもステージ上からのクイズや発表にとどまってしまうこともあります。そのような場合は、全校集会で運動場を利用するか学年集会を行うなどの方法が考えられます。子どもたちが企画しているときに、そのようなヒントを与えることができれば、活動にも広がりが出るでしょう。



7 集会活動を活性化させるための手立てにはどのようなものがありますか。

活動内容や活動した経験が子どもたちの中に蓄積されていくことが最も重要です。そのためにできることを次に挙げてみます。

(1) 児童会室の解放

集会の準備をしている作業中などは無理ですが、できるだけ児童会室を開放し、子どもたちが自由に出入りできる場所にしていくとよいでしょう。掲示物も工夫し、今までの集会活動の様子や、活動までの流れがわかるようにしていくと、次への意欲がわいてくるでしょう。

(2) 掲示板の活用

校内の決められた場所（ろうかや玄関ホールの壁など）に児童会コーナーを作り、集会の様子を掲示しましょう。それ以外に、各学年教室あたりの場所に掲示してもよいでしょう。

「〇月〇日に〇〇集会があります」といったお知らせを貼っておくのも効果的です。掲示委員会に依頼するといよいでしょう。集会委員会と掲示委員会が連携していくなど、委員会活動にも広がりが出ます。同様に放送委員会に働きかけ、集会の予告を給食時の放送に流してもらうといったことも考えられます。

(3) 広報紙の作成

「児童会だより」のような広報紙を作り、学級に掲示してもらうことも考えられます。集会のお知らせや事後の報告だけにとどまらず、委員会やクラブの連絡も載せるなどして充実させてもよいでしょう。

(4) 朝の活動への位置づけ

毎週決まった曜日の朝の活動にショート集会を実施することもよいでしょう。一週間のサイクルの中に活動が位置づけられることによって、集会に対する意識づけや習慣化が図られます。



『創意工夫 生かして 児童会の活性化』

『結果より 過程育てる 児童会』

『協力を 求め広げる 児童会』

『困ったな みんなに相談 議題出す』

『きまりより 方法考え 代表委員会』

『時間と場 保障しようよ 運営委員会』

『委員会 当番だけでは つまらない』

『委員会 アイデア生かす 活動を』

『創意出し 総意でつくる 集会に』

『反省を 次に生かす 集会活動』



【参考文献】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社 2008

宮川八岐『小学校教育課程講座 特別活動』 ぎょうせい 2009

児島邦宏・宮川八岐『小学校学習指導要領の解説と展開 特別活動編』 教育出版 2008

杉田洋『よりよい人間関係を築く特別活動』 図書文化社 2009

徳島県小学校教育研究会特別活動部会『特別活動ハンドブック』 2003